

SGH意識調査（課題研究で力を注いだことの質問で、それぞれの取組ごとに求めた 選択した生徒の合計の平均値÷選択しなかった生徒の合計の平均）

	① 先行事例の研究	② リサーチクエストの 設定	③ 調査・実験	④ 議論	⑤ ファイルドワーク	⑥ 論文レポート作成	⑦ 異なる学類での グループ活動	⑧⑨ 中間発表及び最終発表	⑩ 大学院生や大学の先生との質疑
	323	481	454	319	132	362	164	454	129
(ア) 研究に積極的に取り組んだり、困難な課題にもチャレンジできるようになった。	105.7%	109.1%	104.1%	107.0%	104.3%	107.1%	103.3%	109.4%	106.9%
(イ) グループの状況を見て、自分ができることやもっとこうしたらよいと思ったことを率先して提案できるようになった。	104.7%	109.9%	104.7%	107.5%	109.2%	106.9%	107.0%	103.4%	106.6%
(ウ) 研究のプロセスで、グループ内で意見交換が活発にできるようになった。	103.7%	107.8%	106.2%	108.0%	105.0%	105.4%	106.8%	106.1%	106.9%
(エ) 他者に理解しやすくなるように、発表内容や伝え方の工夫ができるようになった。	102.6%	109.0%	105.3%	106.8%	107.4%	106.5%	104.0%	111.6%	104.7%

「当てはまる」を5、「どちらかと言えば当てはまる」を4、「どちらとも言えない」を3、「どちらかと言えば当てはまらない」を2、「当てはまらない」を1として計算

(4) SGHに関する取組や関連する取組についてのアンケート(教員アンケート)

① 調査の概要

平成29年度に本校教職員を対象に「課題研究」「学類コア科目」「海外での体験活動」それぞれで、①から⑬のSGHで身に付けさせたい力が生徒に身に付いたかどうかを調査した。また、身に付けさせたい力について、効果的と考える指導内容や指導方法についても記述を求めた。

【SGHで身に付けさせたい力】

- ①主体的に考える態度 ②チーム力 ③コミュニケーション能力
④プレゼンテーション能力 ⑤知的好奇心 ⑥専門性の深化 ⑦思考力 ⑧判断力
⑨創造性 ⑩学習意欲 ⑪海外進学意識 ⑫異文化への理解 ⑬語学力の向上

② 調査の結果

【課題研究で特に身に付けさせたい力】

- ①主体的に考える態度 ②チーム力 ③コミュニケーション能力
④プレゼンテーション能力

課題研究については、図7のとおり4つの身に付けさせたい力について、全て50%以上の教員が伸ばすことができたと評価している。

生徒を対象としたSGH意識調査でも、70%程度の生徒がこの4つの能力についての質問に肯定的な回答をしており、教員、生徒いずれも課題研究は、身に付けさせたい4つの力を伸ばすのに効果があったと評価している。

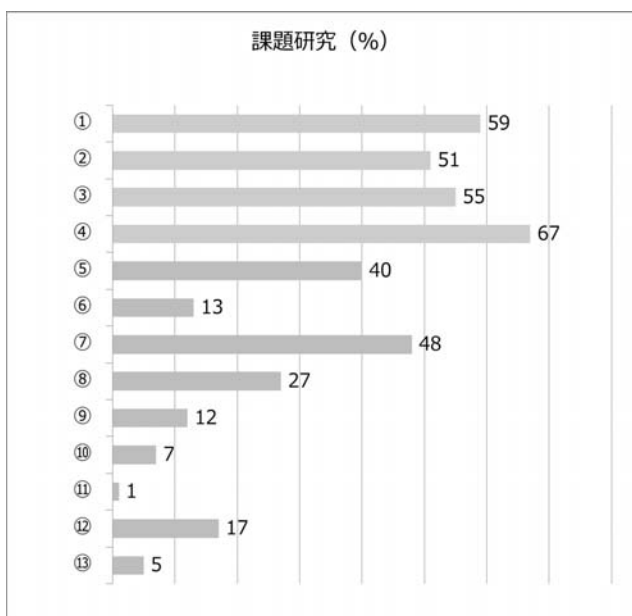


図7 課題研究で伸ばすことができた力

【学類コア科目で特に身に付けさせたい力】

- ⑤知的好奇心 ⑥専門性の深化 ⑦思考力 ⑧判断力 ⑨創造性

学類コア科目では、図8のとおり身に付けさせたい5つの力のうち⑥専門性の進化と⑦思考力については60%程度の教員が伸ばすことができたと評価しており、他の項目と比較しても高い。

一方、⑧判断力や⑨創造性については、伸ばすことができたと評価した教員の割合は低く、今後の課題と言える。

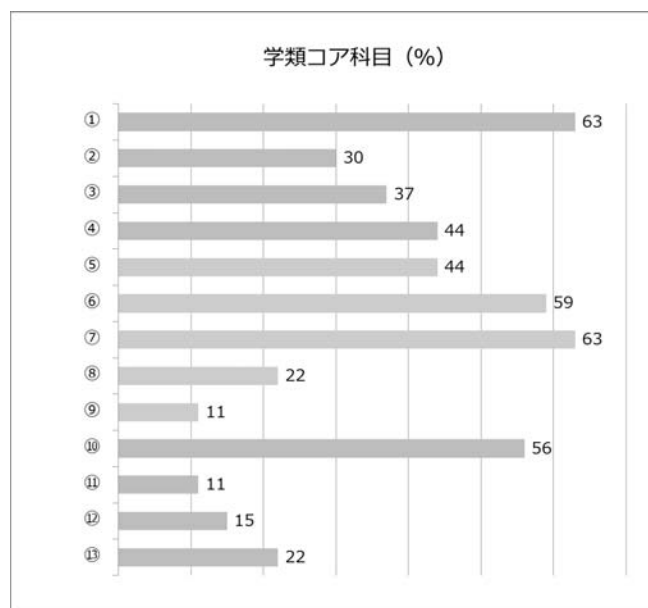


図8 学類コア科目で伸ばすことができた力

【海外での体験活動で特に身に付けさせたい力】

⑤知的好奇心 ⑩学習意欲 ⑪海外進学意識 ⑫異文化への理解 ⑬語学力の向上

海外での体験活動については、次のページにある表のとおり、マレーシアでの学類研修で90%の教員が、また、台湾・韓国での学類研修で83%の教員が、異文化理解を深めることができたと評価している。また、海外文化体験研修でも80%の教員が深めることができたと評価しており、海外に出かけることが、異文化の理解に効果が大きいことが分かる。

また、海外文化体験研修では、60%の教員が語学力を伸ばすことができたと評価している。

海外修学研修は、イギリスを訪問し、2年次の研究成果を発表するが、この取組では70%の教員が学習意欲を伸ばすことができたと評価している。

こうした結果から、海外での体験活動は、身に付けさせたい力に効果が大きかったといえる。

教員アンケート結果（選択率 単位％）

【SGHで育てる資質や能力】Q1の質問にある能力

- ①主体的に考える態度 ②チーム力 ③コミュニケーション能力 ④プレゼンテーション能力 ⑤知的好奇心 ⑥専門性の深化 ⑦思考力
⑧判断力 ⑨創造性 ⑩学習意欲 ⑪海外進学意識 ⑫異文化への理解 ⑬語学力の向上

		Q1 左の取組を通じて、伸ばすことができたと思える能力を全て選んでください（○で囲んでください）												
回答数 (60)	取組	主体的に 考える 態度	チ ー ム 力	コ ミ ュ ニ ケー ション 能力	プ レ ゼ ン テ ー ション 能力	知 的 好 奇 心	専 門 性 の 深 化	思 考 力	判 断 力	創 造 性	学 習 意 欲	海 外 進 学 意 識	異 文 化 へ の 理 解	語 学 力 の 向 上
60	課題研究	68	50	58	58	47	17	52	25	12	7	2	22	7
	12 GLOBAL I	55	55	45	82	45		36	27	9	9		18	
	40 GLOBAL II	73	60	70	60	50	13	60	28	15	5		23	8
	8 GLOBAL III	75		25	25	38	63	38	13		13	13	25	13
23	課題研究発表会	30	52	43	87	22	4	35	30	13	9		4	
38	学類コア科目等の指導	68	39	45	53	47	58	55	24	16	58	16	29	34
14	学類研修（国内）	31	8	38		85	54	31			54		23	
21	学類研修（海外）	19	29	71	43	57	5	10	5	5	24	14	90	24
	9 学類研修（マレーシア）	10	10	60	20	60		10	10	10	10	10	90	
	12 学類研修（台湾・韓国）	25	42	75	58	50	8	8			33	17	83	42
5	海外文化体験研修		20	20		40					20	20	80	60
8	海外修学研修	56		67	78	44		22	11		67	22	56	56
12	留学生や訪問団の受入	8	17	92	8	42	8	8		8	50		100	58
34	宿泊研修	68	91	85	24	6		32	44	29	12			
28	翠緑祭	68	96	61	14			32	36	68	7		7	7

※ 選択割合の高い2項目は太字（同率の場合は3項目まで）

課題研究を通じて身に付けさせたい能力	主体的に考える態度、チーム力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力
学類の専門性により身に付けさせたい能力	知的好奇心の喚起、専門性の深化、思考力、判断力、創造性
海外での体験活動を通じて身に付けさせたい能力	主体的に考える態度、チーム力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力

SGHに関する取組や関連する取組についてのアンケート(教員アンケート) 記述部分

1 課題研究

能力の伸張に、どのような学習活動が効果的であったか教えてください。	左の学習活動を通じて、生徒の能力を伸ばすために、どのような指導の工夫をしたか、具体的に記述ください。
①グループの中できちんと役割を決めて取り組ませた。	①1名はリーダー、そのほかの4名にはそれぞれ成果発表に向けた責任ある役割を与えることで(口答発表2名、ポスター1名、レポート1名)協力させた。
②答えのない課題に取り組ませた。	②枠にはめるのではなく、生徒の発想を大切にして、時々質問をして考えを深めさせた。
③各グループに積極的に話をさせた。	③自分と異なる意見を聞かせることで、気づきや学びがあり、そうした経験から主体的に考えるようになった。
④学類の枠を超えたメンバーで、1つの目標に向かって協力し、対話しながら研究成果をまとめ上げることをさせた。	④生徒の希望ではなく、機械的にメンバーを組んだ。
⑤自分達で疑問点を出し、知りたいことを明らかにさせ、話し合っていく過程で能力を伸張させた。	⑤テーマに関連する情報を具体的に示すと話し合いが深まっていった。
⑥相手に伝えることの難しさを、プレゼンテーションを通じて理解させた。	⑥相談時に、逆にいくつか質問することで、自分の意見や発表方法を客観的にとらえる機会を与えた。
⑦書籍や論文を通じて、先行研究を調べさせ、どういった視点でテーマに向かい合うかを検討させた。	⑦様々な角度からテーマを掘り下げ、知的好奇心が高まった。
⑧インターネットや文献だけでなく、研究に関連する人に聴き取りをするため、現場に足を運ぶ活動をさせた。	⑧各班とも聞き取り調査を実施できるよう、どこに行けば何が分かるといった情報を提供した。
⑨課題研究についての質疑応答を深く行った。英語でも実施させた。	⑨普段指導していない教員が違った視点から質疑を繰り返すことで、矛盾点等に気づかせる工夫をした。
⑩代表の班にはあらためて発表する機会を与えた。自らの研究をブラッシュアップできる機会となり、他の生徒の刺激になった。	⑩発表会に向けて他のチームから質疑を受けさせることで、互いの思考力や反論に対して応答する力が高まった。
⑪分かりやすく伝える工夫、見やすい資料作成などを意識して、準備させ発表させた。	⑪事前のリハーサルで、互いが評価や感想を言い合うことで、軌道修正した。

⑫教員等の前で何度もプレ発表をさせ、自己表現の仕方や他人に分かりやすく伝える力、質疑に対応する力を身に付けさせた。	⑫何度も時間をとって、発表の練習をさせた。特に生徒同士で意見をしっかり言う時間を取り、様々な視点から質問を投げ入れた。
⑬GLOBAL I のA群代表グループを集めて、発表会の練習をさせた。	⑬発表練習会を行う時、研究領域や手法に類似性があるものを同じグループにして発表練習させることで、互いが触発され研究が深まった。
⑭人前でどのように発表すると理解してもらえるのか、どのような質問がでるかを考えさせながら発表の準備をさせた。	⑭自分達の同じグループから多くの質問をつのった。

2-1 学類の専門性（学類研修）

【目的】学類研修

（1）人文社会学類

文化や社会、言語について学び、自国や国際社会の発展に寄与できる教養と能力を身に付けることを目指す。

（2）理数学類

自然科学領域の学習を深め、知的好奇心、創造性、独創性を伸ばしながら、確かな科学的思考力を身に付けることを目指す。

特に理数学類の国内コースでは、物理選択者と生物選択者の学習内容を鑑み、それぞれ異なるコースを設定している。

能力の伸張に、どのような学習活動が効果的であったか教えてください。	左の学習活動を通じて、生徒の能力を伸ばすために、どのような指導の工夫をしたか、具体的に記述ください。
①学類研修で、筑波方面を訪問し、個人では訪問できない研究機関をまわらせた。好奇心を喚起され、自分の進路決定に良い影響を与えた。 （理数学類 物理選択者 筑波コース）	①理系の研究施設を、特定の分野に偏ることなく幅広く選ぶことで、広く理系の進路研究につながった。
②コース決定の際に生物選択の生徒たちのニーズにあうよう、興味が高まるよう工夫し、事前の学習等に目的意識をもって参加させた。 （理数学類 生物選択者 北海道コース）	②学類研修で、北海道を訪問し、知床を訪れることで日本の生態の多様性を肌で感じ、進路選択の一助となった。また、北方領土に関する話を聞き、自国の抱える問題等について意識し自ら考えることができた。
③学類コア科目の指導で、2、3人のグループで、興味のあることを担当させ、事前に調べさせ発表させた。事後はレポートにまとめ、冊子にして全員に配布した。 （人文社会学類 東京コース）	③できるだけ多くのものを調べられるよう（歴史や文学、経済、法理など）様々な領域を設定した。そうして関連する本物に触れる工夫を取り入れた。
④知識として文学史を、あらかじめ講義の形で学ばせた。 （人文社会学類 東京コース）	④作品同士の関連や時代背景などに触れておくことで、訪問先での学習に生徒の発想が拡がりやすくなった。

2-2 学類の専門性（学類コア科目）

能力の伸張に、どのような学習活動が効果的であったか教えてください。	左の学習活動を通じて、生徒の能力を伸ばすために、どのような指導の工夫をしたか、具体的に記述ください。
①古典作品から現代小説まで、様々な作品について調査研究させた。普段の授業では見えない気づきや発見があり、自分の関心を深めることができた。(学類コア科目 文学探究) ②英語によるディベートをさせた。(学類コア科目「GLOBAL STUDIES」)	①様々なジャンルの作品に触れさせ、各自の興味がどこにあるか自分で調査し気づかせて、それを深め、まとめ、発表させ、相互評価させた。他者の関心を知ることで自分の興味の幅が広がった。 ②肯定的、否定的に分かれ、それぞれのテーマについて証拠資料を探し、自分達のチームの主張をより強固な説得力有るものとした。

3 海外での体験活動等

能力の伸張に、どのような学習活動が効果的であったか教えてください。	左の学習活動を通じて、生徒の能力を伸ばすために、どのような指導の工夫をしたか、具体的に記述ください。
①自分の英語力の不足を実感させることができた。(海外文化体験研修) ②スカイプ交流で情報交換を事前にしており、また事前に授業で、韓国や韓国語について学習させてから交流に臨ませた。(海外 学類研修) ③海外の高校の寮での宿泊やホームステイをさせた。(海外 学類研修) ④異国の同年代の生徒同士の交流や、海外の人とふれあう機会を多くもうけた。(海外 学類研修) ⑤自分達だけで外国の町を移動させた。困ったことを多く体験できた。(海外修学研修) ⑥茶道部で韓国の学生を受け入れ、自国の文化を分かりやすく伝えたり、関心をもってもらうための工夫を考えたりさせた。このことで思考力やコミュニケーション能力が高まった。(訪問団受入)	①同年代の異国の生徒をバディにしたり、海外の同学年の学校を訪問し、交流したりする機会を多く設けた。 ②海外の高校生の学習に対する熱意、英語力の高さに刺激を受け、学習意欲が高まった。 ③事前に日本の文化や伝統を紹介できるよう調べさせた。 ④海外の異なる文化を学習する活動を通して日本との違いを認識し、同じ人間としての交流のあり方を知った。 ⑤個々の行事において、教員はそばにいるが、出来るだけ頼らせないようにした。 ⑥茶道や英語も交えて説明したり、ゆかたの着付けなどを体験したりする活動を用意する中で、部員達が自らが主体的に考え、どうすれば喜んでもらえるか工夫をこらせるよう取り組みさせた。

⑦研究成果を英語で発表させた。 (海外修学研修)	⑦シンプルな英語を用いて、相手に分かりやすく伝える工夫をするよう指導した。
⑧訪問団と一緒に授業を受けさせた。訪問生徒の語学力の高さがわかり意欲がわいた。 (訪問団受入)	⑧できるだけ多くの訪問団と交流できるよう工夫した。

4 教科指導

能力の伸張に、どのような学習活動が効果的であったか教えてください。	左の学習活動を通じて、生徒の能力を伸ばすために、どのような指導の工夫をしたか、具体的に記述ください。
①グループによる解答作り、また、グループ間発表を通じて全員で取り組む解答作りをさせた。(国語)	①生徒から考えを引き出す質問を工夫した。グループでの解答を他のグループが協議、その後、互いで意見交換する場を設定した。
②文法などで、互いに問題を出しあう学習活動をさせた。(国語)	②相互に採点する際に励ましや、コメントを入れるよう指導し、学びあう雰囲気を作った。
③小説教材で登場人物の考えや、生き方をどう思うかグループで討議させた。(国語)	③平素から周囲と相談する時間を授業内でとるなどして、自分の考えをしやすい環境を作っておく。
④教材に関するテーマでプレゼンテーションをさせた。(国語)	④生徒が興味や関心をもって設定したテーマに加え、甘口、辛口のコメントをさせた。
⑤古典世界と現代を比較させた。(国語)	⑤それぞれの相違点や共通点を探することで、人間社会の一般性や普遍性を考えさせた。
⑥漢詩を英訳する学習を行った。(国語)	⑥積極性や主体性、知的好奇心をふまえ学習活動を工夫した。その作品の読解力も深まり、また、詩のもつ世界観を失うことなく英訳することで、語学力の向上にもつながった。
⑦現象について、何故かといった疑問に対して、1つの予想を立てさせた。(地理歴史)	⑦結果をすぐ示さず、予想させた後に現象を説明した。
⑧裁判事例を考察させた。(地理歴史)	⑧独りよがりな見方をしないよう、複数の視点から考えさせた。
⑨例題について生徒に考えさせ、疑問点を話し合わせた。(数学)	⑨教科書をしっかり読ませ、疑問点に印を付けさせ、ペアワークで話し合わせた。
⑩班単位で問題を解き、解説させた。難問も協力しながら理解を深めた。(数学)	⑩問題の解説を生徒にさせ、補足が必要なきはポイントをおさえながら質問を交えて説明した。

⑪ゼミ形式にして、生徒に教師を演じさせた。 (数学)	⑪間違っているところを生徒同士で指摘しあい、不十分なところを突っ込んだり、深く解説したりした。
⑫教科書に関連し生物学の先進的な内容や、身近な内容を題材にして、グループで実験・実習に取り組ませた。(理科)	⑫リーダー以外への指導はできるだけ控え、各自が判断してコミュニケーションをとるよう配慮した。
⑬本時のまとめをマインドマップになるような形で毎回班でまとめさせた。(理科)	⑬教科書やプリントからまとめるのではなく、班員と話をしてまとめるよう指導した。
⑭読み取った内容を自分の言葉にして英語で伝えたり、書いたりするリテリング活動や話し合いをさせた。(外国語)	⑭QAを行う際に、どのように自分の言葉で簡単に言い換えるかを示させる。相手からは改善点と良い点のコメントを言わせ、学びあいの姿勢を育てた。
⑮TTによるグループ活動をさせた。 (外国語)	⑮グループのメンバーやALTに理解してもらい、質問を受け答えすることで達成感を感じさせるようにした。
⑯授業でペアグループ活動を多くさせた。 (外国語)	⑯生徒の興味関心にあうレベルの活動を提示しながら、新テストで求められる学力の育成につながる活動を考慮した。
⑰批判的思考力や自分の意見を発表する力の育成を意識して、ディベートをさせた。 (保健体育)	⑰常に、否定、賛成どちらの意見も大切にする指導をした。特に論拠を大切にさせた。
⑱活動の様子を動画にとり、パワーポイントを使い報告させ、振り返らせた。 (保健体育)	⑱現状と解決策をデータから考察させた。
⑲個人の作品の制作途中に相互チェックさせた。(芸術)	⑲導入段階で目的と学習の道筋について理解させる時間をとった。
⑳海外の音楽事情を紹介させた。(芸術)	⑳オペラの流れと西洋音楽の流れをリンクさせた。
㉑4～5人で1枚の提出物を作成させた。 (家庭)	㉑生徒の様子を見ながら合理的に分担する方法をアドバイスした。

SGHに関する取組や関連する取組についてのアンケート

氏名 ()

これまでの取組を通じて、SGHで目指す能力に、どういった指導が効果があったかを検証しています。これまでの先生方の指導で効果的であったことや、生徒の変容につながった取組があれば、次の欄に具体的に記入してください。

【参考 SGHで育てる資質や能力】	
主体的に考える態度、チーム力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、知的好奇心、専門性の深化 思考力、判断力、創造性、学習意欲、海外進学意識、異文化への理解、語学力の向上	

	Q1 左の取組を通じて、本校の生徒にどのような力 が身についたと思いますか。	Q2 Q1の力は、SGHでの、どのような学習が影響した と思いますか。	Q3 Q2のような学習に向けて、あなたが指導で工夫 したことは何ですか。
GLOBAL I からⅢの課題研究で の指導			
学類コア科目など、学類での専 門的な学習での指導			
海外修学研修や海外文化体験研 修などの海外での体験活動での 指導			
宿泊研修や翠緑祭などの特別活 動での指導			
教科指導など、そのほかの指導			

授業実践例

教科・科目	国語・国語総合（現代文）	年次・生徒数	1 年次 40名
単元(題材)	評論		
単元の目標	問い立てを通じて他者と対話しながら多様な意見を共有する		
使用教材	「トロンボーンを吹く女子学生」 渡辺 裕		

1 指導により身に付けさせたい資質や能力(次から選び○を付けてください)

① 主体的に考える態度	2 チーム力	③ コミュニケーション能力	4 プレゼンテーション能力			
5 知的好奇心	6 専門性	⑦ 思考力	8 判断力	9 表現力	10 創造性	11 学習意欲
12 海外進学意識	13 異文化への理解	14 語学力の向上				

2 1の能力を身に付けさせるための指導の工夫

・投げ込み教材にすることで、全員がその場で考えられる状況にする。 ・グループワークで、自分の意見を付箋に書き、他者と対話しながら意見の共有ができるようにする。
--

3 指導の展開例

学習活動（生徒の立場で書く）	指導・支援上の配慮事項
1 時間目 1. テキストを読み、テキストに書かれている実社会の状況をまとめる。 2. 自分が知っている類似した実社会の状況を隣同士で話し合い、発表する。 3. 筆者の主張をまとめる。 4. テキスト本文に対する読了時の「問い」を作り、提出する。 2 時間目 5. クラスメイトの立てた問いに目を通す。 6. 自分の立てた「問い」を付箋に書き、グループ内で分類し、話し合っって根源的な「問い」を作る。 7. グループごとに立てた根源的な「問い」を黒板に書いて発表する。 8. 自分の修正した「問い」をワークシートに記入し提出する。 (課題) 自分の意見・立場を明確にして、エッセイを書く。	・ワークシートを全員に配付する。 ・「イデオロギー」「良妻賢母」「ジェンダー」などの語彙を辞書で調べさせ、時代背景について説明を補足する。 ・楽器以外にも性差のイメージが残っているものや、男女の役割が固定しているもの等を挙げさせる。 ・論理展開や構成を理解させ、主張を捉えさせる。 ・クラス全員分の「問い」を列挙したプリントを作成しておく。 (グループワーク) ・プリントを配付し「問い」に目を通させる。 ・グループ内で出た「問い」を分類し、テキストに答えがあるものや主張から逸れているものは協議し、根源的な「問い」となるように話し合いをさせる。 ・「問い」が根源的な「問い」に近づいているかを生徒と確認する。 * 「問い」立ての重要性を確認する。

4 実践したことでの成果(生徒の変容の様子など具体的な変化)

・「問い」立ての仕方や重要性について考えることができた。 ・生徒のエッセイを読むと、自身を取り巻くイデオロギーについて関心を深め、自分の意見を書けているものが多く見られた。 ・生徒が社会に目を向けるきっかけとなり、「新書を読む！」という次の取り組みにスムーズにつながっていた。
--

授業実践例

教科・科目	地理歴史・日本史B	年次・生徒数	2 年次 36名
単元(題材)	室町時代の文化		
単元の目標	中世社会の多様な展開、文化の特色とその成立の背景について考察させる		
使用教材	詳説日本史（山川出版）、新詳日本史（浜島書店）、自作まとめプリント		

1 指導により身に付けさせたい資質や能力(次から選び囲んでください)

① 主体的に考える態度	2 チーム力	③ コミュニケーション能力	4 プレゼンテーション能力			
5 知的好奇心	6 専門性	7 思考力	8 判断力	9 表現力	10 創造性	⑩ 学習意欲
12 海外進学意識	13 異文化への理解	14 語学力の向上				

2 1の能力を身に付けさせるための指導の工夫

・事前に配付したまとめプリントを活用させることにより、取り上げる歴史事項を精選させ、それぞれについての具体的な内容及び歴史的意義について考えさせておく。 ・班別学習を取り入れることで、歴史には様々な見方が存在し得ること、また、それぞれの論拠に對して討議する態度を育成する。

3 指導の展開例

学習活動（生徒の立場で書く）	指導・支援上の配慮事項
1. まとめプリントに掲載されている歴史事項から一つを取り上げ、それがどのような歴史的意義を持つものであるかを簡潔に説明する。 2. 班（4～5名で構成）の中で、お互いに発言者の発表内容について疑問点等があれば質問及び、補足説明を促す。 3. 発表者以外の班員で発表内容についてその説明の論旨の明確性等について総合的に評価する。 4. 班員全員について前記の行為を繰り返す。	教科書の記述を踏まえながらも、単にその棒読みに終わることなく、前後の時代の事象と比較しながら自らの言葉で説明するように促す。 各自がそれぞれの発表に対して何か一つ発言することを義務付け、受け身の態度に終わらないよう指導する。 一人の発表に時間を割きすぎ、冗漫な雰囲気にならないよう、適当な時間配当をを設定する。

4 実践したことでの成果(生徒の変容の様子など具体的な変化)

・歴史的事象に関して、単なる機械的暗記に陥ることなく、それぞれの内容が取り上げられている意義について考える態度が実施前と比較して見えてきた。 ・新たな史料等の発見により従来の定説が覆り、教科書の記述が変更されるなど、歴史学にも「動き」があるということを理解できるようになった。

授業実践例

教科・科目	数学・数学演習Ⅱβ	年次・生徒数	3年次 18名
単元(題材)	問題演習		
単元の目標	難解な問題を解くことで、数学的な思考力を身に付ける		
使用教材	改訂版 メジアン 数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B		

1 指導により身に付けさせたい資質や能力(次から選び困ってください)

① 主体的に考える態度	2 チーム力	③ コミュニケーション能力	④ プレゼンテーション能力			
5 知的好奇心	6 専門性	⑦ 思考力	8 判断力	⑨ 表現力	10 創造性	⑪ 学習意欲
12 海外進学意識	13 異文化への理解	14 語学力の向上				

2 1の能力を身に付けさせるための指導の工夫

- ・6人ずつの3つのグループに分けて、グループごとに問題に取り組ませる。
- ・解答を板書する人、板書を説明する人などグループ内で分担させる。
- ・説明を聞いた後、各グループの代表を決めさせ、他のグループに移動し問題を説明させる。
- ・振り返りのための用紙を配り、授業の最後にグループごとに提出させる。

3 指導の展開例

学習活動 (生徒の立場で書く)	指導・支援上の配慮事項
1. 解答を板書する。	・1時間に2周の問題を1つのグループで解くように指示し、解く生徒はグループ内で相談して決めさせる。 ・板書している間に、振り返りのための用紙を配付する。 ・解説を聞く生徒が理解する時間とれるように、説明する速さや小問ごとに質問の時間を取るなど説明をコントロールする。 ・各班から質問が出るように促す。 ・問題の内容の難易度に合わせて質問事項を追加したり、解説者が回答に窮したときなどには助言をしたりする。 ・解説終了後に解答を配付する。 ・代表者の説明が、グループごとに行われているのグループに移動して問題をグループ内で説明する。
2. 板書した解答を説明する。	
3. 説明を聞き、理解できない箇所について質問をする。	
4. 各グループごとに代表を1名選出し、他のグループに移動して問題をグループ内で説明する。	
5. 振り返りのための用紙に問題ごとに記入し、グループで集めて提出する。	・振り返りの内容をより詳しく書くように指導する。

4 実践したことでの成果(生徒の変容の様子など具体的な変化)

- ・最初は、おぼつかない説明であったが、回を重ねるごとに説明のポイントがわかるようになり、どのように説明したら相手に伝わるか考えながら説明できるようになった。
- ・質問への対応も、あらかじめ予想できるものも予定外のものも自分なりの言葉で答えられるようになった。
- ・振り返りについては、図や式を使って具体的な内容に変わっていった。

授業実践例

教科・科目名	理科・生物	対象生徒	3年次 20名
単元	動物の発生		
単元の目標	動物の配偶子形成と受精、初期発生の過程及び細胞の分化と形態形成のしくみを理解させる		
使用教材	教科書(第一学習社)、図表(浜島書店)、ウニ発生過程の写真カードワークシート		

1 指導により身に付けさせたい資質や能力(次から選びOを付けてください)

1 主体的に考える態度	2 チーム力	③ コミュニケーション能力	4 プレゼンテーション能力			
5 知的好奇心	6 専門性	⑦ 思考力	⑧ 判断力	9 表現力	10 創造性	11 学習意欲
12 海外進学意識	13 異文化への理解	14 語学力の向上				

2 1の能力を身に付けさせるための指導の工夫

- ・写真カードを使用することにより、下の2点ができるようにした。
 - ①視覚的な情報を元に、様々な思考を想起したり、自分の意見の根拠を指で指し示して明らかにしたりすることが容易にできる。
 - ②ウニの発生過程をそれぞれの写真から読み取れる特徴を比較し、論理的に思考する材料とすることができる。
- ・班活動により、話し合いながら、学んでほしいポイントをワークシートで考察させる。

3 指導の展開例

学習活動 (生徒の立場で書く)	指導・支援上の配慮事項
1. 本時の活動の内容を知る。 1班に1セット、ウニの初期発生の写真カードと1人1枚ワークシートを受け取る。	・写真カードとワークシートを配布し、本時の活動の説明をする。
2. 細胞の大きさや数、胚の形などを根拠に、話し合いながら、発生の順番を考察し、カードを並替える。	・机間指導をし、考えるヒントや、注目すべきポイントを伝える。
3. ワークシートの設問に答える。班全員でカードを見て話し合う。答えをワークシートに記入する。	・話し合いが活発になるように、机間指導しながら発問する。
4. 他の班と自分の班の結果を比較し、自分の班の順番の根拠を説明する。また、他の班の意見を聞く。	・比較させる際、正解の班が無い場合は、発問により考えさせ、間違いに気付かせる。また、班による違いがある過程があれば、どちらの答えが妥当か自分たちで考えさせる。
5. ウニの発生過程を図表で確認した後、ワークシートの答えを発表しながら、解説を聞き要点を学ぶ。	・重要語や、それぞれの過程における重要なポイントを解説する。

4 実践したことでの成果(生徒の変容の様子など具体的な変化)

- ・自分の目で確かめながら思考し、話し合いながら得た情報は頭に残り易いため、発生過程の順番や、その要点がよく理解できていた。
- ・自分の意見をわかりやすく説明するためには、重要語を知っていることが大切であることを理解できた。
- ・他の班と比較するため、自分の班で考えたことを説明できるように、活発に意見を交わし、出た意見をまとめる努力ができた。

授業実践例

教科・科目	英語・コミュニケーション英語Ⅱ	年次・生徒数	2 年次 40 名
単元(題材)	Try Brainteasers! 難問に挑戦しよう! (啓林館「ELEMENT II」)		
単元の目標	論理パズルを英語で読み取り、楽しみながら謎を解く		
使用教材	オリジナルプリント、教科書		

1 指導により身に付けさせたい資質や能力 (次から選び○を付けてください)

① 主體的に考える態度	2 チーム力	3 コミュニケーション能力	4 プレゼンテーション能力
⑤ 知的好奇心	6 専門性	⑦ 思考力	8 判断力
12 海外進学意識	13 異文化への理解	14 語学力の向上	⑨ 表現力
			10 創造性
			11 学習意欲

2 1 の能力を身に付けさせるための指導の工夫

本時に取り組む難問は、荷物を川の向こう岸に運ぶことを仕事にしている男についてである。その日男が扱っていたのは、1 匹のオオカミ、1 匹のヤギ、そしてキャベツだった。彼の小さい船では、1 度に 1 つのものしか運べなかった。しかも、オオカミはヤギを、ヤギはキャベツを食べてしまう。どのようなしたら 3 つ全てを無事に向こう岸に運ぶことができるだろうか。生徒には、本文にある難問をゲーム感覚で解き明かしながら、英語を読む楽しさを感じてほしい。

3 指導の展開例

生徒の学習活動	指導・支援上の配慮事項
1. 問題の部分にあたる本文の音声を聞く。 2. 教科書の問題にあたる本文を読む。 3. 本文の日本語要約シートに書き込み、問題文を理解する。 4. 答えが分かかった生徒は答えの穴埋めシートに答えを書き込む。 5. 他の人に説明できるように、ワークに図を描いて、説明する内容を考える。 6. ペアを組んで、英語で方法を説明する。 7. 発表の希望者を集い、全体の前で教材提示装置を使って、図を用いながら説明させる。 8. 正答と穴埋めの答えを確認する。	・予習をあえてさせていないため、分からない単語などを調べる時間をとれるよう十分に配慮する。 ・解くのに時間がかかる生徒は、先にヒントになっている答えの穴埋めシートを見るように指示する。 ・なにがこの問題を解くポイントであったのかを投げかけ、次時につなげる。

4 実践したことでの成果 (生徒の変容の様子など具体的な変化)

- ・使われている単語は難しくなく、英文としても難易度は低いのでほぼ全ての生徒が問題文を理解しており、問題を解こうという姿勢が見られた。
- ・「運ぶ・連れて行く」という表現が説明の中で多く出てくるが、同じ表現ばかりにならないようになんとか工夫している様子が見られた。
- ・説明するための図を用いながらパートナーに説明することを準備の段階から楽しんでいる様子が見受けられた。

授業実践例

教科・科目	芸術・美術	年次・生徒数	1 年次 24 人
単元(題材)	鑑賞		
単元の目標	思ったり感じたりしたことを具体的に作品の中に指摘して表現できる		
使用教材	生徒作品、鑑賞ワークシート		

1 指導により身に付けさせたい資質や能力 (次から選び○を付けてください)

① 主體的に考える態度	2 チーム力	③ コミュニケーション能力	4 プレゼンテーション能力
5 知的好奇心	6 専門性	7 思考力	8 判断力
12 海外進学意識	13 異文化への理解	14 語学力の向上	9 表現力
			10 創造性
			11 学習意欲

2 1 の能力を身に付けさせるための指導の工夫

- ・鑑賞の流れをペアから小グループ、個人の振り返りの順とする。
- ・ペア鑑賞では、質問と回答を交代で行わせる。
- ・個人の振り返りを深めさせるため、小グループでの意見交換を行う。
- ・鑑賞する作品は生徒自身が制作した作品を使用する。

3 指導の展開例

生徒の学習活動	指導・支援上の配慮事項
1. 本時の目標と鑑賞の流れを聞く。	・鑑賞ワークシートを全員に配付する。 ・本時の目標と鑑賞の流れについて説明する。
2. ペア鑑賞での質問事項を考える。	・質問や回答が建設的で、具体的な表現になるように指示する。 ・活発にやりとりができていくか観察する。
3. ペアで相互鑑賞をする。 質問者と回答者を交代で行う。	・クラス内の作品を鑑賞し、制作者へ簡潔なコメントを残させる。 ・グループでリーダーを決めさせる。
4. 教室内で他の生徒の作品を鑑賞する。	
5. クラスの作品についてグループで話し合う。 他の人の見方や感じたことを知り、自己の鑑賞を深める。	
6. 自分の作品を振り返り、感想を書く。(5分)	・具体的な記述で書かせる。

4 実践したことでの成果 (生徒の変容の様子など具体的な変化)

- ・どの生徒も活発な鑑賞活動が行えた。
- ・小グループでの話し合いを行うことで、個人の振り返りが深まったことがワークシートの記述から読み取れた。

授業実践例

教科・科目	家庭・家庭基礎	対象	1 年次 40名
単元	衣服の手入れ		
単元の目標	洗剤の種類と働きを理解し、衣類表示に基づいた適切な洗濯をすることができ		
使用教材	教科書 資料集 プリント 洗濯実験器具・材料 (PowerPoint使用)		

1 指導により身に付けさせたい資質や能力(次から選biOを付けてください)

① 主体的に考える態度	2 チーム力	3 コミュニケーション能力	4 プレゼンテーション能力
⑤ 知的好奇心	6 専門性	7 思考力	8 判断力
12 海外進学意識	13 異文化への理解	14 語学力の向上	9 表現力
10 創造性	11 学習意欲		

2 1の能力を身に付けさせるための指導の工夫

- ・与えられた材料をどのように組み合わせれば比較実験が成立するのか、班で計画を立てさせる。
- ・自分の意見が持てるように、結果・考察・結論はまず個人でメモさせ、その後班で検討させる。

3 指導の展開例

学習活動（生徒の立場で書く）		指導・支援上の配慮事項
1. 衣服の取扱い表示と洗剤の種類を理解する。		・制服の取扱い表示を例に説明する。
2. 論文の鉄則を確認する。		・洗濯洗剤のCM画像を見せながら紹介する。
3. 各班で洗濯実験の計画を立てる。		・論文の鉄則を確認し、本時は洗濯実験という手法を使って根拠を提示することを伝える。
4. 洗濯実験を行う。		・洗濯方法を説明する。水と洗剤の入ったポリビンに、汚れをつけた試験布を入れて攪拌する。布はプラカップの水ですすいで、トレードで乾かす。
5. 問い・仮説・方法・結果・考察・結論については個人でプリントにメモしておく。		洗剤…A) おしやれ着用品 (中性・すすぎ2回) B) 一般洗濯用液体 (弱7弱酸性・すすぎ2回) C) 液体コバ外洗剤 (弱7弱酸性・すすぎ1回) D) " (中性・すすぎ1回) E) " (弱酸性・すすぎ1回) 試験布…綿 麻 羊毛 ポリエステル 汚れ…コーヒー ケチャップ 各種ペン
6. 研究レポートを班で1枚仕上げる。		・2種類のポリビンを使ってできる洗濯実験の例を示し、各班で計画を立てさせる。
7. 1班ずつ、実験テーマと結果を発表する。		蛍光ペンには弱7弱酸性と弱酸性のどちらが効果的か 攪拌回数は汚れ落ちに影響するのか おしやれ着洗いは本当に繊維にやさしいのか

4 実践したことでの成果(生徒の変容の様子など具体的な変化)

洗剤・汚れ・試験布をどのように組み合わせれば比較実験が成立するのか、班ごとに計画を立てさせたことで、生徒は積極的に実験に臨んだ。しかし先を見通す力のない班は、すべてを同じ条件にしたり、複数の異なる条件を設定したりして、比較不可能になった。「事実に基づく・論理的な根拠」を提示する経験は、10月以降の課題研究に活かされるものと思われる。

授業実践例

教科・科目	国際教養学類コア科目 (Practical Writing)	対象	3 年次 30 名
単元	4 理由の表現 Further Exercise 「Gap Year の是非」 (数研出版「Write to the Point」)		
単元の目標	理由を表す表現を効果的に用いて、自らの意見を論理的に書く		
使用教材	自作プリント、数研出版「Write to the Point」より		

1 指導により身に付けさせたい資質や能力(次から選biOを付けてください)

① 主体的に考える態度	2 チーム力	3 コミュニケーション能力	4 プレゼンテーション能力
5 知的好奇心	6 専門性	⑦ 思考力	8 判断力
⑫ 海外進学意識	⑬ 異文化への理解	14 語学力の向上	9 表現力
10 創造性	11 学習意欲		

2 1の能力を身に付けさせるための指導の工夫

- ・Gap Year 時の活動事例を調べさせることにより、情報収集の在り方とその情報の英作文への取り入れ方を考えさせる。また、海外の事例に興味を持たせる。
- ・論理的に適切でない英作文例を提示し、なぜ適切でないのかをグループで考えさせる
- ・生徒が相互に添削・コメントをすることにより、論理的表現力を高める。

3 指導の展開例

生徒の学習活動		指導・支援上の配慮事項
0. 教員の導入を聞く		・Gap Year の概念を説明し、興味づけを行う
[HW] 1. Gap Year に関する新聞記事を読む		・生徒の自主的な資料収集を促すため、最低限の内容(制度の目的、活動内容、現状)を提示するに留める
2. 関連資料を収集し、その利点と欠点を考える		
1 時間目		
1. 3人程度のグループで、利点と欠点および調べてきた内容をシェアする		・ただ書いてきた内容を交換して見せ合うのではなく、言葉で伝えるよう指示する
2. Gap Year の肯定派、否定派、ジャッジに分かれ、グループ同士で討論をする		・2年次 Global Studies で習ったディベートのやり方(意見出し)が実践させる
3. 討論の勝敗をジャッジが決定し、伝える。討論を振り返り、何が勝敗の決め手になったかを考える		・反対意見とそれに対する反駁を想定することは、説得力のある文を書くのに必要であることを伝える。
4. クラス全体で3.で話し合った内容をシェアする		・各班から出された利点や欠点をまとめ、必要に応じて補足する
[HW] 討論の内容をふまえて、英作文の第一稿を書く		
2 時間目		
1. 同一テーマで書かれた、論理的に妥当でない文例2種を読み、個人で問題点を考える		・机間指導をしながら、議論が進んでいないグループを補助する
2. 問題点をグループでシェアし、その後クラス全体でもシェアする		・添削時のポイントをまとめる
3. HW で書いてきた英作文第一稿を交換し、最低2人に良い点と改善点をコメントする		
[HW] コメントを元に第二稿を書く		・翌授業で回収し、添削・コメントをする

4 実践したことでの成果(生徒の変容の様子など具体的な変化)

- ・実施前は「表現がわかりやすい」とか「あなたの意見のこの点に賛成だ」といった偶然としたコメントが多かったが、本時だけでなくその後の同様の活動において、コメントの客観性や反論を想定した助言・必要な情報を問うような質問が増えた。
- ・以前は論理的に飛躍した英作文が多く見られたが、多少大きく飛躍した回答は減った。
- ・問題点の話し合いまでを含め全て英語による活動ができるかという不安もあったが、何とか伝えようとする姿勢が多く見られた。

(5) スーパーグローバルハイスクールに関するアンケート調査（卒業生調査）

① 調査の概要

3年間SGHの研究開発の対象であった、平成28年度及び平成29年度の卒業生を対象にSGHでの取組が、大学入学後の学習、将来の進路、海外への進学意識等に影響を与えたかどうかを検証するために調査した。

② 調査の結果

147名の卒業生から回答があった。調査の結果は次のとおりである。

(ア) あなたは高校在学中にSGHや、関連するプログラムに取り組んだことで大学等の進路や将来の職業志望などについて影響を受けましたか？(N=147)

とても受けた	どちらかという受けた	どちらともいえない	あまり受けなかった	まったく受けなかった
14%	24%	25%	26%	11%

(イ) ①から⑤のSGHでの学習は、現在の大学等での学びや、将来の職業志望に必要な能力を伸ばすために役立っていますか？「役立っている」「どちらかといえば役立っている」と思う学習を選択してください。(複数選択可 N=147)

①	②	③	④	⑤
63%	39%	27%	61%	53%

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| ① 生徒自らによる探究課題設定 | ② フィールドワーク、調査データ収集・分析 |
| ③ 日本語でのディスカッションないしはディベート | |
| ④ 日本語でのプレゼンテーション実践 | ⑤ 日本語での課題研究レポート作成 |

(ウ) 次のAからFの学習は、現在の大学等での学びや、将来の職業志望に必要な能力を伸ばすために役立っていますか？(N=147)

- A 外国人教員（ALTやEnglish Teacher、外国人TA）による授業
- B 海外文化体験研修（1年次に実施）
- C 海外での学類研修（2年次に実施）
- D 来校した海外生徒との交流経験
- E 英語でのディスカッションないしはディベート
- F 英語でのプレゼンテーション

	回答数	役立っている	どちらかといえば役立っている	どちらともいえない	どちらかといえば役立っていない	役立っていない
A	141	37%	35%	16%	9%	3%
B	56	63%	21%	9%	5%	2%
C	67	67%	19%	7%	1%	4%
D	94	40%	26%	24%	5%	4%
E	107	44%	27%	21%	7%	2%
F	99	46%	21%	25%	2%	5%

(エ) 岡山城東高校で、SGHや、関連するプログラムを受講したことで、グローバルな視野（地球俯瞰的思考力、異文化理解力、国際理解、日本人アイデンティティ）や主体的・協力的実践力（積極性、チャレンジ精神、チーム力、語学力、コミュニケーション力）が身に付いたと思いますか。(N=147)

身に付いた	どちらかといえば身に付いた	どちらともいえない	どちらかといえば身に付かなかった	身に付かなかった
37%	44%	12%	3%	3%

③ 結果の分析

「高校在学中にSGHに取り組んだことで、大学等の進路、将来の職業志望などについて影響を受けたか」といった質問に対しては、38%の卒業生が影響を受けたと回答しているが、文系学部への進学者が約50%であるのに対し、理系学部の進学者については、18%と低くSGHの取組は文系進学者への影響が大きいと考えられる。また、「現在の大学等での学びや、将来の職業志望に必要な能力を伸ばすために役立っていますか」の質問では、海外に出かけて行く研修が役立ったと体験者の60%以上が回答しており、現地に出かけることの効果が実証されている。

「グローバルな視野や主体的・協力的実践力が身に付いたか」といった本事業の目標に対しての質問に80%以上の卒業生が肯定的な回答をしている。実際に大学に入学して、SGHでの取組が役立っていることを実感して回答したものと思えるので、今後もSGHでの取組は継続していく必要があると思われる。

【質問用紙】

1 回答者氏名、卒業年度及び進学先を教えてください。もしよろしければ、現住所と連絡先（メールアドレス又は電話番号）を教えてください。

2 あなたが現在所属している専門分野を選択してください。

- ① 文学（外国語、外国文学を含む）・史学（世界史を含む）・哲学・心理関係学部
- ② 海外文化・国際コミュニケーション等を含む人文学関係学部
- ③ 教育関係学部
- ④ 法学・政治学関係学部
- ⑤ 商学・経済学関係学部
- ⑥ 社会学・社会事業関係学部
- ⑦ 理工学関係学部
- ⑧ 農学関係
- ⑨ 医学・薬学・看護学など保健関係学部
- ⑩ 芸術関係学部
- ⑪ その他

3 あなたは高校在学中にSGHや、関連するプログラムに取り組んだことで、大学等の進路や将来の職業志望などについて影響を受けましたか？次の①から⑤より1つ選んでください。

※SGHや、関連するプログラムとは
課題研究GLOBAL I, II, III、海外修学研修、学類研修、海外文化体験研修
学類コア科目での学習、SGH講演会、課題研究発表会とします。(以下同じ)

- ① とても受けた
- ② どちらかという受けた
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり受けなかった
- ⑤ まったく受けなかった

4 次の①から⑤のSGHでの学習は、現在の大学等での学びや、将来の職業志望に必要な能力を伸ばすために役立っていますか？「役立っている」「どちらかといえば役立っている」と思う学習を選択してください。(複数選択可能)

- ① 生徒自らによる探究課題設定
- ② フィールドワーク、調査データ収集・分析
- ③ 日本語でのディスカッションないしはディベート
- ④ 日本語でのプレゼンテーション実践
- ⑤ 日本語での課題研究レポート作成

5 次のAからGの学習は、現在の大学等での学びや、将来の職業志望に必要な能力を伸ばすために役立っていますか？「役立っている」ならば1を「どちらかといえば役立っている」ならば2を、「どちらともいえない」ならば3を、「どちらかといえば役立っていない」ならば4を「役立っていない」ならば5を、経験がなければ6を選択してください。

- A 外国人教員（ALTやEnglish Teacher,外国人TA）による授業
- B 海外文化体験研修（1年次に実施）
- C 海外での学類研修（2年次に実施）
- D 海外修学研修（イギリス 2年次に実施）
- E 来校した海外生徒との交流経験
- F 英語でのディスカッションないしはディベート（課題研究や英語の授業、ITC）
- G 英語でのプレゼンテーション（課題研究や英語の授業、ITC）

6 大学入学後、海外の大学に留学（短期・長期）したり、海外の研修に参加したり、海外でホームステイをしたりしましたか。あれば、内容（短期留学、長期留学、研修、ホームステイ）訪問した国名、施設名及び期間を教えてください。(分かる範囲でお願いします。)

(記入例)

内容	国名	施設名	期間
短期留学	大韓民国	梨花女子大学	H30.9.15 ～ H30.10.5
研修	アメリカ	カリフォルニア大学	H30.7.15 ～ 8.12
ホームステイ	カナダ		H30.9.15 ～ H30.10.5

7 あなたは今後、海外の大学に留学したり、海外の研修に参加したり、海外でホームステイをしたりする予定がありますか。予定があれば、分かる範囲で内容、訪問する国名、使用する施設名及び期間を教えてください。(6の記入例に従ってください。)

8 あなたは岡山城東高校で、SGHや、関連するプログラムを受講したことで、グローバルな視野（地球俯瞰的思考力、異文化理解力、国際理解、日本人アイデンティティ）や主体的・協力的実践力（積極性、チャレンジ精神、チーム力、語学力、コミュニケーション力）が身に付いたと思いますか。次の①から⑤より1つ選択してください。

- ① 身に付いた
- ② どちらかといえば身に付いた
- ③ どちらともいえない
- ④ どちらかといえば身に付かなかった
- ⑤ 身に付かなかった

※ 質問は以上です。ありがとうございます。